13　火返し（ヒーゲーシ）御願

これは昔々の話ですよね。火玉（ひーだま）といってね、火事を起こす神様。これ、悪い神様なんですよ。それがどこの家に来てですね、

「あんたは火事を起こしなさい」、こう言いつけられて天から下って来た。しかし、日限が限られて下って来たんだが、その家はとっても掃除とか、清潔で、それから、いつも竈の前には水なんか置かれておってですね、どうしても火事は起こすことができない。

それで、どうしたもんかと。この火玉は、火事の神様ですよね。これはどうしたもんかと。これはもう到底、私が命令されてこっちに来たんだが、火事を起こすことができない。それで、どうしたらいいかということで、

「実はこうこういうもんで、私は命令されて来たもんだが（これは、暗示を与えたんですよね、この家の人に）、何月の何日にこういうふうにして四角において、

ちょっと家の格好を造って、そこに火を付けて、そして竈の前から火を付けて、ホーファイホーファイして出してくれ」と。そしてもう、この火玉がですね、竈に潜んでいるのが出て行ったという。

昔は、今の竈はですね、戦後は改良竈ですが、昔は石三つをもって、そこに鍋を載っけたんです。非常に簡単ですよね。だからそこを清潔にせんとどこへでも火が燃え移って行くという状態ですからね。そういう時期の話なんです。

その後は、部落でもこれは、その話を聞いて、部落でもこの行事を大切にしようと、それから現在もですね。戦前は部落のこの村の前の、こっちにもあったんですよ、前は。そして、こっちが広場。そこの中にですね、その日になったら、旧十月の八・二の日、それから正月の八・二の日、そこに小さい小屋を造って、これを神女が拝んで。それで、神女が拝みをしてから、今年度中、火事を起こさないで下さい、と拝んでから、家帰った時に、そこで村の人が火をこれして。そうしたら、神をたたえてですね、そして、ホーファイホーファイする。今でもそれが続いておる。

字与座　金城幸徳